

「この四月独立校となった西彼野母崎高校(山下)黨學校長)は、独立校となったのを記念して校歌の制定を急いでいたが、このほど完成した。

作詩は声出身の詩人藤浦流氏。作曲は藤浦氏と組んで多くのヒット曲を出した古閑裕而氏。藤浦氏は同校から作詩を取組まれた野母崎町を卒業し、高校から町内一帯を回って親密な取材をし構想を練った。そのイメージを古閑氏の古閑裕而氏が作曲、町の人々へ強く訴へて

も格調ある一流の校歌が出来上がった。山下校長は「作詞も作曲も一流、立派な校歌ができて感激

歌詞は次の通り。

### 明るく、力強く

『藤浦流作詩・古閑裕而作曲』

### 野母崎高の校歌でさるる

してつづきます。生徒たちがこのすばらしい校歌にはへへと笑って成果を誇りに思っています」と

同校はこの秋、盛大な発表会を開くことになっている。

表を聞くことになっている。

あり 野母崎高校 われらが

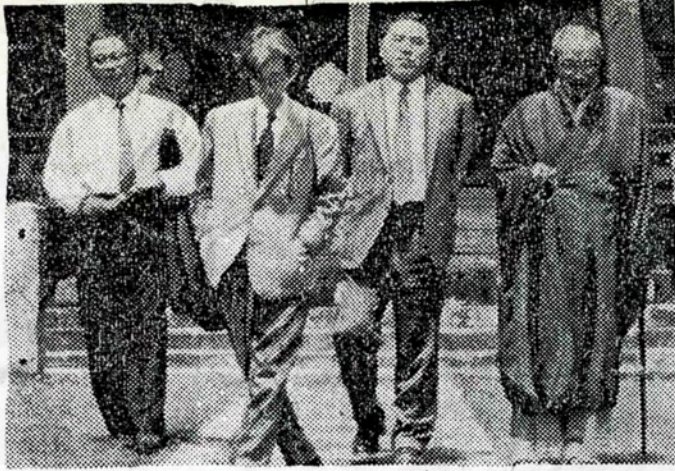
母校

正しき道 麗秀いで 誠実胸に 映くして 心は熱くたくましく 共に愛をこゆるみなき 学びの日毎 築きあげよ 野母崎高校 われらが母校

英知の大地 ふみしめて たゆまぬ歩行(あゆみ) 意気高く 闘志を燃ゆるのめ 勇気(ゆうき)もついで(の) 明日を創る力もつと なる事業(わざ)わかれ 栄えあれ 野母崎高校 われらが母校

若人(わかしゅ)の季節(とき) 山吹(やまぶき)の風 高き山(たかね)を登り 輝(きら)め

47年4月、野母崎町を訪れた藤浦さん  
(左から2人目) その右は高平町長



ル2階 〒857

諫早通信部

(電②3075)  
諫早市幸町617

〒854

島原通信部

(電③0227)

島原市先魁町  
1163

〒855

厳原通信部

(電②0849)

下県郡厳原町棧  
原44

〒817

広告のご用は  
長崎 ③8131

S. 54. 3. 14

読売

販売へのご用は

販売管理センター  
25-9793

新中	川前	②95689
中	央山	②74669
中	城山	②26374
中	式見	②71145
中	式見	④0023
中	式見	⑥5991
中	式見	⑦1973
中	式見	⑧3722
中	式見	⑩6916
中	式見	⑬5345
中	式見	⑭1294
中	式見	⑮0281
中	式見	⑯1791
中	式見	⑰1791
中	式見	⑱4738
中	式見	⑲5345
中	式見	⑳0910
中	式見	㉑3387
中	式見	㉒2420
中	式見	島(高島) ㉓2180
中	式見	島(高島) ㉔1473
中	式見	島(高島) ㉕2801
中	式見	島(高島) ㉖1490
中	式見	島(高島) ㉗3081
中	式見	島(高島) ㉘4459
中	式見	島(高島) ㉙2806
中	式見	島(高島) ㉚0557
中	式見	島(高島) ㉛0771
中	式見	比田勝(比田勝) 2259

平戸市出身の詩人、藤浦光さんが亡くなった。中学時代まで暮らした平戸をはじめ佐世保に、長崎に故郷を愛する詩を残して。幼友たちは「子供のときから繊細で文学が好きだった」と、ありし日をしのんでいる。

## 故郷賛歌 藤浦光さん

### しのばれる気さくな人柄

藤浦さんの生家は平戸市崎方町に残っているが、いま、たれも住んでいない。ここに祖母と二人で住み、猶興館中学(現猶興館高校)を二年足らずで中退し故郷を離れている。四歳下で家が隣だったという佐世保市八黒町三〇の二

四、親和銀行調査役藤浦さん宅に「すもも」「平戸のうた」など、

は「猶興館はパンカで荒っぽい気風があったので、多感な藤浦さんには合わなかった」とい

が、故郷を愛する気持ちは変わらな

**停電**  
松浦市 ◇15日▽午前9時―11時30分止  
佐世保市 ◇15日▽午前8時―11時30分止  
湯島町の一部。

**断水**  
西彼杵郡 ◇15日▽午前8時―10時止  
長崎市 ◇15日▽午後1時―3時止  
田中町の一部三十戸。

た詩で、除幕式にも出席した。田さんは「私とよく遊んでいた。四年ほど前に会ったときで最近体が弱っているとは聞いていたが……」と目をうるませた。

西彼杵郡野母崎町では高平米雄町長が突然の悲報に「信じられない」と声を詰まらせた。

高平町長は四十七年四月一日、栗立野母崎高校が県立長崎南高から分離独立した際、新しい学校にふさわしい校歌を、と上京して藤浦さんに作詩を依頼した。

その数日後、藤浦さんの作品集「ランパの絵」の出版記念祝賀会が長崎市で開かれた際、藤浦さんも来崎。「校歌を作詩するために言ったおられたのに……。残念です」と思い出を語っていた。

まで足を伸ばした。協陣や亜熱帯植物園などを回り、同校にも寄ってクラブ活動に汗を流している生徒たちと気軽に話をかわした。

帰京後、三番にわたる校歌を一気に作詩。自ら古閑裕而さんに作曲を依頼した。

同校には今も藤浦さん直筆の校歌原稿を保存しており、現在の前田真澄校長は「学校の宝です」としのんでいる。高平町長は「気さくな方でした。突然の依頼だったのに二つ返事で引き受けてくれた。お礼のつもりで、その後は毎年町産産のカラスミを送っていた。もう一度野母崎を訪れたいと言っておられたのに……。残念です」と思い出を語っていた。





長崎県

野母崎高等学校

校歌

古藤  
閑圃  
裕而  
曲詩

1. 2. 前 3.

# 長崎県・野母崎高等学校

## 校歌

藤浦 謙 詩

吉原 裕而 曲

明朗に、強く、

昭和47.5.25.

mf

わー

mf

ど の こ き う め ひ か り か か  
し の う と む ゐ  
ま の かい

や く き ほう や ま は ゆ る め

どりのかせのそよぐーおーかた

かきりとうを、あおきつつど

いてここにほこりーあーりのそ

さきこうこうわれらがほこ

